



# 北部教育研修センター

(北部教育研修センター実証実験事業)

## センターだより第7号

2020年3月13日(金)

沖縄県名護市字為又 1220-146  
北部教育研修センター

発行責任者  
センター長 高安 美智子

### 北部教育研修センター実証実験事業の中間評価

#### ◆北部教育研修センター実証実験事業（事業主体：北部広域市町村圏事務組合）の通知書

沖縄北部地域が連携して教育力の強化と教育環境の高度化を目指し、次世代を担う児童生徒の基礎学力の向上を図るため、小中学校の教職員等を対象とした授業力向上に資する研修を実施するなど、北部地域全体で一貫した研修を行う機能として北部教育研修センター事業の実証実験を行う。

2018（平成30）年12月26日（担当省庁）内閣府

#### ◆実証実験事業の中間評価について、上記の通知書の下線部も考慮しながら、以下の柱でまとめました。

- |                      |                       |
|----------------------|-----------------------|
| I 「児童生徒の基礎学力の向上」について | II 「授業力向上に資する研修」について  |
| III 「教員養成講座」について     | IV 「今後の研修センターの設置」について |

II 「授業力向上に資する研修」については、下表1の評価方法で行うことを事前に各校長に説明・協力依頼をし、2020年1月末に北部12市町村立小・中学校教職員及び校長へのアンケートを無記名で実施しました。今回はその結果と先生方への聞き取り調査の結果を中心にまとめ、以下の基準で評価を行いました。

【評価基準 S：目標以上の成果である A：目標を達成した B：目標達成への努力は認められるが、目標は一部達成されていない C：目標がほとんど達成されていない】

表1 評価方法及び自己評価

レベル（評価項目）	各レベルの内容	評価資料	自己評価
1 反応： 受講者の研修満足度 (講師、日程、内容等)	研修講師の評価や次の研修への改善のために、研修を構成する各要素が適切な状態であり、受講者自身として満足できたかの度合いをみる。	研修直後の受講者アンケート	A
2 学習： 受講者の理解度 (知識、技能、理解等)	受講者の満足度の反応だけにとどまらず、受講者が、研修者の提供した知識や技能を理解・習得したかの度合いをみる。	受講者アンケート 教員の自己評価	A
3 行動： 受講者の行動変容・実践活用 (意欲や授業改善等の実践)	受講者が、研修で得た知識やスキルを授業改善に活用し、望ましい行動に変容したかを見る。	教職員・校長アンケート記述・聞き取り	B
4 結果： 受講による組織への影響 (児童生徒の変容や学校一丸となった取り組み)	児童生徒に与えた成果や、学校全体への成果等の度合いをみる。例えば、受講者の行動変容が児童生徒の変容につながったか、学級や学校全体としての取り組みになったかどうかに着目する。	校長アンケート 教職員アンケートの記述・聞き取り	C

- 評価の理由 1 反応 (A)：予定以上の研修を実施し、受講者の肯定的な満足度が97%以上であったこと。
- 2 学習 (A)：授業者の99%が教員としての意識面での刺激や授業力向上等を実感している。
- 3 行動 (B)：肯定的な意見は多いものの、活用・行動変容までは十分な把握ができていない。
- 4 結果 (C)：一部では児童生徒の変容が見られるが、学校一丸となった実践にできなかった。

#### ◆教職員及び校長によるアンケート結果

※研修参加数は、研修参加名簿よりカウント

アンケート実施状況（校長の回答）			参加者数（校長・教頭・教諭）	
学校数	校長の回答数	回答率	研修参加延べ人数	研修参加実人数
小学校 36	34	94.4%	408	303
中学校 16	16	100%	343	209
併置校 11	8	72.7%	53	39

# 2019年度実証実験事業のまとめ

## I 「児童生徒の基礎学力の向上」について

児童生徒の基礎学力は、全国学力・学習状況調査及び沖縄県到達度調査の結果から分析することになっているが、今年度公表された「全国学力・学習状況調査」は2019年4月に実施、「沖縄県到達度調査」は2019年2月に実施されたものである。いずれも本事業の本格的な研修開始前の実施結果であることから、今回の中間報告では実証実験事業との関連性をみることは難しいと思われる。また、一部には全国学力調査等に対する批判的な意見もあり、学力調査だけに捉われるのは危惧されるが、本事業の実証実験という性質上、それらの分析が求められているということもご理解いただきたいと思う。参考までに今年度の結果について、これまでの推移から次のようなことがわかった。

- ①「全国学力・学習状況調査」(2019.4.実施)の平均正答率について
  - ・小学校「国語」が全国平均を2.6ポイント上回っている。県平均との差も縮まっている。
  - ・算数の正答率でも前年度と比較して、県との差、全国との差が若干縮まっている。よって、この年の実践事例を振り返って、指導の参考にすることも可能ではないかと考える。
  - ・中学校の平均は、国語、数学ともに全国及び県平均との差が大きくなる傾向がみられる。2019年度は、国語はさらに差が大きくなった。数学では差が縮まっている。これは、中学校での数学の授業改善が図られつつあるという評価も聞かれ、これが功を奏している要因の一つだと思われる。この数学の取り組み事例は、日本算数・数学教育研究全国大会でも発表され、本センターの算数・数学教育研修発表会でも紹介された。この取り組みを北部全体で共有し推進していくことができれば、継続的な効果が期待できると考えている。
- ②「2018年度沖縄県到達度調査」(2019.2実施)の平均正答率の地区別比較について
  - ・全体的に良い結果ではないが、5年生の国語は県平均との差が、0.1ポイントと小さくなっている。
  - ・中学校では、1年の数学と2年の国語・数学・社会・理科・英語が実施されたが、すべての教科で厳しい結果となっており、課題改善へのさらなる努力が必要である。

## II 「教職員等を対象とした授業力向上に資する研修」について

1：反応 受講者の研修満足度(日程、内容等) 評価資料：研修直後の受講者アンケート

	日程	内容	今後活用できそうか
とても満足	69.4%	71.3%	72.5%
やや満足	27.6%	27.3%	26.7%
あまり満足ではない 全く満足ではない	3.0%	1.4%	0.8%

【考察】日程、内容については、小・中学校の学校行事や行政研修等のある程度照合して設定しており、参加者からはいずれも満足度が高く肯定的な意見が多かった。講師の満足度については、今回は特に調査はしていないが、講師の評価も含めた内容の満足度を捉えていることが、受講者の感想から読み取ることができた。講師選定については、指導主事等からの推薦で依頼した講師もあり、再度聞くことで理解が深まったという意見がある反面、以前聞いたことがあり、多様な講師のいろいろな講話を聞きたいという意見が寄せられた。引き続き各機関と連携し、より良い企画を検討していきたい。次年度の企画もほぼ決まっており、早めの周知を予定している。

- 内容については、以下のような意見もあった。
  - ・学級経営に関わる子どもへの接し方、スキルを伝授する研修が必要である。
  - ・道徳や特別活動の授業づくりがもっとあってもいいかと思えます。
  - ・スキルアップを図る為に工夫された研修を希望したい。
  - ・しかけのある授業または模擬授業を研修させてください。知識伝達授業からの脱却を目指す。
  - ・特別支援(インクルーシブ教育やDV等)に関する研修機会がもっと多いと参加者が増えるのではないかと思います。
  - ・教職員のニーズに応じる。(希望する研修をアンケートする)

## 2：学習 受講者が研修から学んだこと・理解度（知識、技能、理解等） 評価資料：受講者アンケート

(1) どのような刺激を受けたか(小学校、中学校)

- ①やりがい(小19.2%、中26.2%) ②使命感(小32.3%、中32.0%) ③意欲(小39.9%、中36.9%)  
④授業力(小47.0%、中51.6%) ⑤自己研鑽(小59.1%、中43.4%) ⑥特になし(小0.5%、中1.6%)

【考察】上記の結果は、小・中学校全体では、自己研鑽が53%と最も高く、授業力が49%、意欲が39%、使命感が32%と回答している。特になしは1%未満で、99%が授業者としての意識面で何らかの刺激を受けたと回答している。特に、研修を受けることによって自己研鑽の必要性を感じるなど、研修から大きな示唆を得ることができ、授業力の向上に向けた様々な学びを習得できたことが窺える。

○受講者の記述から

- ・栗原先生による特別支援教育の研修を受け、保護者への対応の仕方等とても参考になった。
- ・菊池先生のDVD視聴学習会では、一人一人の子どもを大切にしている姿勢に共鳴した。気持ちののらない子や理解が難しい子も突き放すことなく丁寧に対応していて、声掛けがよかったので勉強になった。
- ・市川伸一先生の「教えて考えさせる」は目からうろこであった。基礎知識がない子に考えさせることは不可能である。必要なことはしっかり教えてあげることが大切だと思った。ただ、教えすぎはいけないと思う。松田小学校の井口教頭先生の話の中から、「教える場面と考えさせる場面をもつこと」が大事だとわかった。プロセスを考えさせたり、タイムマネジメントもできるようになったり、いろいろ学ぶことができた。

## 3：行動 受講者の行動変容度・実践活用度(意欲や授業改善等の実践) 評価資料:教員のアンケート

(1) 受講者の研修後の変容

- ①授業力向上につながった(小22.2%、中33.6%) ②学級経営が向上した(小17.7%、中11.5%)  
③研修意欲が高まった(小71.2%、中60.7%) ④変化無し(小4.0%、中7.4%)

【考察】研修後の変化について参加者の自己評価は、小・中学校全体では「研修意欲が高まった」67.2%が最も高く、次に「授業力向上につながった」27%で、「学級経営力が向上した」15%となっている。「わからないまたは変化なし」は、参加者320人中、わずか17人(5%)であった。当初は短期間の研修では変化はわからないという意見も聞かれたが、参加者の実に95%が意欲等の向上を自覚していることが分かった。

(2) 研修成果をどのように活用しているか(記述)

- ・学級経営で活用している。学級通信の書き方や教材、教室掲示の工夫、学級開きなど。
- ・児童理解に努め、授業力の向上を図る。保護者との関わり方。
- ・授業で実践してみること。子どもの良い点を見る。
- ・学級開きをそのまま活用。学級目標のつくり方。
- ・子に合った対応、日常的な夢へのアプローチ、キャリア教育、児童理解。
- ・保護者対応で研修内容を参考にしている。言語活動の工夫・きめ細やかな教材・教具の配慮。
- ・児童や保護者への対応、学級指導についての講話に当たる担任の心得。
- ・発問の仕方や授業づくり、リズム感のある授業を作り上げる。
- ・アドバイスを受けたことを意識して授業展開や生徒の声掛けに活かしている。
- ・どう発問すれば生徒の考えを引き出せるのか教材研究の中で活用している。
- ・授業におけるタスク活動での活用、生徒の学習意欲を向上させる声かけや支援。

(3) 研修後の教員の変容(記述)

- ・児童の特性に注目するようになった。
- ・児童を多面的に理解し、適切な対応ができるよう心掛ける。児童を捉えなおすことができた。
- ・様々な子供がいることを知り、広い視野で見ることができた。
- ・学んだことをすぐに試していく中で児童に対する発問や質問に対して返す言葉を改善できるようになってきた。
- ・児童への普段の声掛けや授業での声かけを意識するようになった。

- ・ 道徳授業のアプローチが変わった。価値観という概念を学級経営に活かそうとしている。
- ・ 英語科として単元テストの内容・方法、評価の仕方など取り入れている。
- ・ 児童を多面的に理解し、適切な対応ができるようになった。
- ・ 研修意欲が高まり、児童を捉えなおすことができた。

#### ○聞き取り調査から

- ・ 研修を受けた次の日からモチベーションが高まるのを感じた。
- ・ 研修を受け、教材研究や子どもたちを伸ばそうという意欲が湧いた。
- ・ 研修内容が明日の授業から直ぐに実践に活用できるものが多くよかった。
- ・ 菊池先生の「隣と5秒で話し合っ」とかというようなテンポよく子どもを乗せるコツは参考になり、実際自分の学級でも使ってみたりしているが、効果がある。直ぐ活かせる授業技術が勉強になった。

【考察】研修に参加したことで研修意欲が高まったという回答が多い。意欲の高揚が授業改善の第一歩となり授業改善につながれば児童生徒の学力向上に繋がることから、研修の成果は大いに期待できる。

#### 4：結果 受講による組織への影響度(学校一丸となった実践) 評価資料：校長アンケート、教員の聞き取り 学校での活用・教員の実践力向上

##### ○研修成果の共有や活用について（校長アンケート結果）

校 種	①校内研修で報告	②職員会議で報告	③特に設けていない	④その他
小学校	19	6	7	9
中学+併置校	5+2	4+2	9	4

##### ○記述

- ・ 受講したことにより、学級経営（生徒との関わり方）に変化（謙虚な姿勢）が感じられる教員もいる。授業改善、学級経営等「もがく教師」は必ず成長します。
- ・ 学年の先生方を誘って一緒に研修を受け、志を一つにするとお互いのモチベーションが上がり、同僚性が高まり、教材研究も効率よくなった。
- ・ 校内でも先輩教師から日々学んでいるが、研修会に参加すると、他校の先輩教師からも大きなヒントが得られるので、学ぶことが多く、効率がよい。研修での学びをどう活かしていくか、自分自身も楽しみである。ここに研修の意義があるのではないかと思う。
- ・ 現在、校内研修主任として北部教育研修センターの内容を校内研修でも要約して報告している。
- ・ 校長のアドバイスもあり、互見授業をしたり、研修で学んできたことを自分なりにスライドを作成し、研修成果を全学で共有したり活用できるようにしている。
- ・ 習得にも「主体的・対話的で深い学び」があるという言葉が印象的であった。「理解深化問題」を作成していくことを全体で共通実践していきたいと思う。
- ・ 栗原先生の難しい保護者の対応やケース会議の持ち方など大変勉強になった。それを職員と共有した。
- ・ 授業改善の方向と視点を教科会や学年での授業検討会で活用している。

【考察】研修成果の組織的な活用について、校長アンケートによると38.5%の学校では校内研修や職員会議で報告を行っているという回答があった。参加者からの資料提供や参加者が自主的に書面を作成し、研修報告を行うことにより、研修成果を学年会等で発表し、全体で情報共有を図っている学校もあり、徐々に研修成果を学校内で活用していることが分かった。

#### 4：結果 受講による組織への影響度 学校・学級・児童生徒の行動変容

- ・ 笑顔、認め合う(みとめ言葉)ことを教師自らやることによって、クラスの雰囲気がとてもよくなった。
- ・ 間違いや、マイナスの点を叱るのではなく、出来る子やプラスの面を見て、とにかくほめることを意識した結果、クラスが明るく活気がでてきた。
- ・ 英語をよく聞いて、体を動かす活動を入れ、楽しみながらウオーミングアップをすることができてきた。
- ・ 理解できない子がいるかも・・・と不安にならずにどんどん英語を聞かせたり、答える時も教師側がしっかり声かけすることにより、子どもの発言・発表が増えてきた。
- ・ 生徒が自由に意見が言えるように努めた結果、生徒の授業に向かう姿がよくなった。
- ・ 「折り紙の遊び」を多面体の展開図を指導するのに使い、生徒の理解が深まった。

- ・見方・考え方を働かせる授業のコツを教えてください、自分の授業に活かしていて、数学がわかりやすくなったという生徒の声が聞かれるようになった。
- ・生徒の自尊心を高めながら、まずはリフレーミング、否定ではなく、ほめる、肯定から入れるように取り組んでいて、生徒の自己肯定感が高まっている。
- ・「ゆっくり、はっきりと伝える。本人が知っている言葉で言い換える。語数をおさえる。言語指示よりも視覚支援が有効。モデリングと身体ガイドを効果的に」を心がけて子どもたちと対応していて、以前より子どもたちが落ち着いている。
- ・Writing の重要性を感じ、表現や書く指導に力を入れた結果、以前よりもスムーズに書くことができるようになっている。
- ・「教えすぎはいけない」とわかっているけど、つい教えすぎてしまうことがあるので気をつけている。そのおかげで、生徒が試行錯誤しながら考える思考が深まっている。
- ・道徳の授業づくりの「小さな道徳」について、気軽に使え、しかも効果は大きいので導入していて、子どもたちも楽しく授業に参加している。
- ・教科書研究で構成要素をしっかりと分けて考えることから問いが出てきたり、発問を工夫することができ、子ども達が以前より思考するようになってきた。



授業風景①：今帰仁中学校



授業風景②：恩納中学校



授業風景③：大宜味中学校



授業風景④：国頭中学校

### Ⅲ 北部教員養成講座について

#### 1. アンケートによる受講者からの感想

(2019年2月実施)

- ・仕事の後、中南部まで行くのは難しいので、名桜大学で開催されているのはありがたい。
- ・私は、この講座を受講するにあたり、採用試験を1年でも早く合格するという気持ちで、日々勉強に取り組んでいます。1日でも早く教壇に立ち、北部12市町村の子ども達の将来を明るくできる教師になりたいという気持ちを忘れず、これからも精進していきたいと思います。
- ・私は、教員養成講座に参加できることで、一人で勉強するよりも、最新の試験情報を同じ教員を志す人たちと一緒に学ぶ方が刺激にもなり、頑張れると思いました。北部出身でもあるので、教員になって、不登校ゼロの学級づくりを目指したいと思います。学力低下の背景にある貧困や特別支援教育に関して、担任裁量で、だいぶ変わってくるなと感じたからです。その目標を叶えるための救いとして、この講座はとてもありがたいと思います。どの先生方も講座にかける思いが伝わる位、資料も丁寧なので、くり返し問題を解きたいと思います。
- ・北部出身で中部から本講座に参加している。企画された趣旨である北部から教員を出したいという強い思いを感じることができました。北部の現状等を鑑みて熱意をもって教鞭を振るわれる先生方に感謝しながら受講している今日です。

(2019年11月実施)

- ・勉強方法はもちろんですが、合格した方々の話を聞いて「もっと勉強しないと！」「自分にもできるかも！」とモチベーションが上がりました。
- ・週3回集まることで周りの人と一緒に頑張ることができるので、部活動等で参加ができない日以外は全て参加して、少しでも自分のものにしていけるように頑張っていこうと思う。
- ・専門は自主学習できるが、教職教養は幅が広くて対策が難しいのでありがたいです。

(2020年2月実施)

- ・小学校において専門科目の講座があることがとてもありがたい。
- ・全範囲を網羅していただけるので、勉強がやりやすくなった。
- ・新しい指導要領にも対応していて、また、教育に関する新しい情報や先生方の試験勉強法、現場で働いていたときの経験談なども聞けるので大変勉強になり助かる。
- ・受験仲間からも刺激をもらい、勉強していくとどんどん数学が好きになり、生徒と向き合うことが楽しくなった。

#### ○校長からの意見・要望等

- ・北部の教育レベルのアップのために、北部出身の教員を多く出している本講座はとてもありがたい。
- ・北部に根を下ろし、地域とともに子どもたちを育てるために、地元からたくさんの先生方がでてほしい。その意味でこの講座はとても有意義である。
- ・講座の中で、法規や答申など自分だけでは勉強しづらい科目も講座できちんと指導しているとのことで受講生にとって勉強がしやすいと思う。
- ・講座が無料ということで、受講生として大変助かっていることと思う。
- ・平日に2時間×2回の時間確保は個人では厳しいと思うので、このような講座の場は大変貴重である。
- ・北部の現状等を鑑みて熱意をもって教鞭を振るわれる先生方に感謝しています。
- ・このような場を提供していただいている関係者の皆様に感謝申し上げたいと思います。北部から教員を出すというその熱意は必ず受講生に伝わっていると思います。今後ともこのような取り組みを継続して頂ければと思います。
- ・本講座は北部の地域発展及び沖縄県の教育力の向上に役立っていると思います。

【考察】本地区の教職員は、まだまだ地区内の人材だけでは賅えないのが現状である。他地区から異動してきた教員の中には腰を据えて教育に携わることは難しい面があると考えられる。また地区ごとに教科書が変わることもあり、教員の負担も大きい。優秀な人材を育てるために、教員養成に力を入れ、本務採用の教員を増やすことが北部にとって学力向上の第一歩となる。そして、教員の研修を励行し、その相乗効果で児童生徒の学力向上という課題の解決が図られることを願っている。北部地域の課題の改善策として地域の要請を受けて始めたのが「北部教員養成講座」であり、優秀な教員を育て本務教員として地元で働いてもらうことは、教育に対する熱い想いや愛郷心、地域貢献の観点からも重要なことであり、地域の願いでもある。本講座を継続することは地域の願いであり、各市町村教育委員会等も地域を担う子供たちを地域で育て、地域に貢献できる人材を望んでいるのは、論を待たない。

#### 【結果】2019年度実施教員候補者選考試験実施状況

	1次合格者（合格率）	最終合格者（合格率）	1次合格者の最終合格率（合格率）
一般	合格者12名/受講者42名 (28.6%)	合格者9名/受講者42名 (21.4%)	最終合格者9名/1次合格者12名 (75.0%)
学生	合格者10名/受講者16名 (62.5%)	合格者3名/受講者16名 (18.8%)	最終合格者3名/1次合格者10名 (30.0%)

【評価】 2019年度「教員養成講座」の事業評価は「A」とする。

その根拠は、2019年度教員候補者選考試験に12名が最終合格者をし、10名以上の合格者を出すという年度目標を達成したことである。

#### IV これまでの北部地区の課題と北部教育研修センターの研修事業について

##### 1. 場所・時間の制約があり、研修に参加が厳しい、研修の機会が少ないという課題の改善

○研修後の参加者からの評価結果から

- ・県立総合教育センターや民間の研究団体が主催する研修については、長期休業中に限られ、遠距離の為、時間も経費もかさむことから、本事業を待ち望んでいた。
- ・首都圏での全国規模の研修や大学院で学ぶような良い研修が受けられ感謝している。
- ・北部で研修が受講できるということや授業後でも参加できる時間帯の研修があるため有難い。
- ・北部で研修が受けられるのは大変ありがたい。職員は研修の必要性を感じており、その後、意欲も高まっている。今後も積極的に参加を促したい。
- ・北部教育研修センターの必要性はほとんどの先生方が感じている。行政の研修との連携やそれを補完する研修等が必要になってくると思う。
- ・このような素晴らしい講師の研修が北部地区で受けられることは大変ありがたいことである。
- ・近くに研修を受ける場があることは大変ありがたく思います。研修内容も豊富で充実してきたかと思えます。学校で時間の調整を図り、多く研修へ参加できる機会をもうけなければと思っています。
- ・今年度は伊平屋中で研修の場を設定していただいたので、ほとんどの職員が参加できてよかった。
- ・北部教育研修センターの研修が受けられることが新たな意欲となっている。やりたいことが増えてきた。必ずやってみようという気持ちになり、次のステップアップに向けて計画的に挑戦してみたい。

【考察】受講者のアンケート結果から、北部で研修が受講できるということや、授業後でも参加できる時間帯の研修であるため有難いという回答が寄せられている。平日の放課後や夜間、休日に様々な研修を行うことにより、教職員が望む時間帯や研修内容等を模索しながら、多くの研修を実施してきた。受講者の評価結果からも、教員にとって必要な研修や授業改善に資する研修が北部で実施されているセンターへの信頼は高く、当センターの設立により、当初の課題改善につながっていると考えている。

## 2. 今後の研修について

(1) あなたが必要と思う研修は何ですか。(複数回答%)

授業改善	授業力	特別支援	道徳	教科指導	学級経営	生徒指導	特活	情報	総合
45.7	44.2	38.7	37.7	37.5	29.8	18.6	16.8	15.1	7.6

【考察】上記調査は、授業改善の必要性を強く感じている結果であり、授業改善に向けた研修の必要性が認められる。さらに、特別支援や道徳教育についても同様のことが高い数値となっている。

## 3. 今後の研修センター設置に向けて（学校での無記名アンケートより）

○今後、研修センターは必要であるかという問いに、教員アンケートから次のような回答があった。

- ・センターは必要である705名(88.6%) ・不必要1名(0.1%)
- ・どちらでもない90名(11.3%)

【考察】センターの必要性に関して、「不必要またはどちらでもない」と答えた数はそう多くはないものの、その大部分は当センターの研修に参加していない教員からの評価であった。研修の必要性は参加しないとわからないところもある。センターの必要性には否定的であっても、研修の必要性までは否定していないことを願っている。

○校長のアンケート結果（記述）

- ・すばらしい研修が多いので、これからも機会があればできるだけ多くの職員を参加させたい。
- ・大変ありがたい研修であるので、是非継続してほしい。次年度の計画も示されたので、年計へ位置づけ、他の行事とできるだけ重ならないように工夫をし、多くの職員を参加させたい。
- ・研修へ参加した教員が採用試験で合格している。今後とも授業力・学級経営力の向上のため、研修を継続してほしい。
- ・現場の実情に沿った研修を設定していただき感謝しています。私自身も数回研修に参加し大きな示唆を受けました。
- ・スーパーティーチャーや講師の方々が素晴らしく内容も充実しているので是非、継続して頂きたい。
- ・今後も教職員の授業力向上につながる研修を企画して頂きたい。
- ・北部から教員を出すというその熱意は必ず受講生に伝わっていると思います。今後ともこのような取り組みを継続して頂ければと思います。
- ・北部の地域発展及び沖縄県の教育力の向上に役立っている本講座を受講できたことを嬉しく思います。

【考察】教員のアンケート結果では、センターの必要性を望む意見が88%と多いが、校長のアンケートでは、今後のセンターの必要性についての質問項目がなかったため、校長の意見は十分に把握できなかった。校長アンケートには、センター設置に関する意見と明記しておらず、単に「当センターに対する意見・要望をお書きください。」としたため、必要性を記述している回答が少ない結果となった。

研修の実施については、「国頭教育事務所や市町村教育委員会、総合教育センター研修との共催でさらに充実した研修を実施した欲しい。」「次年度はもっと多くの教員を参加させたい。」等、改善の為の意見も出され、センター設置への期待が感じられる記述は随所に見られた。

## ◇編集後記

時間ギリギリに研修に駆けつけてくれたある先生は、「職員会議終了後に大急ぎで同僚を誘って来ました。」一緒に参加した同僚からは、「研修を受けると、実践したいという思いが沸き起こり、早く登校したいと思えるようになり毎日が楽しくなります。」と話してくれました。研修の機会が得られたと喜ぶ先生方の話を聞いて、子どもたちの笑顔が浮かんでくるようでした。児童や保護者との接し方、授業づくりの学び合いと実践の様子等を伺い、研修が教員の意欲や技能の向上に繋がること、個々の教員研修が児童生徒の学力向上に繋がることを確信させられ、さらに研修の成果を広げていきたいと思いました。

## 2020年度 北部教員研修センター研修計画

番号	期 日	行 事 名 内容・時間	研修場所
①	4/16(木)	2020年度(前期)教員養成講座開講式 「2020年度実施 教員候補者選考試験対策講座」開始 19:00開始	北部生涯学習 推進センター
②	4/21(火)	中学校国語研修会(国頭地区中学校国語研究会:共催) 13:00~17:00 杉本直美先生(国立教育研修所・文部科学省教科調査官)	北部生涯学習 推進センター
③	5/14(木) 5/20(水) 5月予定	★5月は臨時的任用教職員「授業づくり研修会」の研修月間として企画 中・高数学 高安美智子先生(名桜大学・北部教育研修センター長) 小学校算数 大城覚先生(北部教育研修センター特命准教授) ※中学校英語、中学校社会、中学校国語、小学校理科 16:00~17:30	北部生涯学習 推進センター
④	6/4(木)	地域連携研修会(コミュニティ・スクール講演会)名護市教育委員会:共催 木村直人課長(文部科学省会計課長)	名桜大学 多目的ホール
⑤	6/5(金)	小学校国語研修会(国頭地区小学校国語研究会:共催)時間 水戸部修治先生(京都女子大学教授) 時間 14:00~16:45	名護小学校
⑥	6月上旬	広報誌(学校だより・学級だより・保健・その他)づくり研修会 講師:仲地 暁(ヒューマンキャンパス高等学校長)	北部生涯学習 推進センター
⑦	6月上旬	保育士・幼稚園教諭研修会 講師:未定	名桜大学 多目的ホール
⑧	6/16(火)	ミドルリーダー研修会① 時間 16:00~17:30 高安美智子先生(名桜大学特任教授・北部教育研修センター長)	北部生涯学習 推進センター
⑨	7/8(水) 7/9(木)	管理職マネジメント研修(校長・教頭) 7/8 午後(教頭) 7/9 一日(管理職) 兵庫教育大学マネジメント研究会 日渡円教授 他	北部生涯学習 推進センター
⑩	7/29(水)	校種間交流事業(中・高連携)部活動指導者研修会 国頭地区中学校体育研究会:共催 時間 14:30~16:45	北部生涯学習 推進センター
⑪	7/31(金)	臨時的任用研修会【養護教諭】午前 模擬授業 時間 10:00~12:00 講師:大城正章(今帰仁中 校長) 新城敦(北部教育研修センター)	北部生涯学習 推進センター
⑫	7/31(金)	臨時的任用研修会【保健体育】午後 模擬授業 時間 14:30~16:45 講師:荻堂かおり(名護中 養護教諭) 新城敦(北部教育研修センター)	北部生涯学習 推進センター
⑬	8月予定	特別支援教育セミナー(午前・午後二部構成 両方参加可能) 栗原慎二先生(広島大学教授) 日程調整中	北部生涯学習 推進センター
⑭	8/12(水)	小学校外国語活動・中学校英語研修会 中嶋洋一先生(関西外語大教授)・直山木綿子先生(文科省視学官)	名桜大学 多目的ホール
⑮	8/14(金)	中学校英語教諭研修会(名護市教育委員会:共催) 崎浜功美先生(今帰仁中学校教諭) 時間 14:00~16:45	北部生涯学習 推進センター
⑯	8/14(金)	小学校プログラミング研修会 時間 14:00~16:45 中里収先生・佐久本功達先生・天願 健先生(名桜大学教授)	北部生涯学習 推進センター
⑰	8/17(月)	道徳教育研修会 鈴木健二先生(愛知教育大教授) 時間 14:00~16:45	名桜大学 多目的ホール
⑱	8/21(金)	算数・数学校種間交流会(算数・数学研究会:共催) 算数・数学授業づくり発表会 時間 14:00~16:45	北部生涯学習 推進センター
⑲	11/21(土)	スーパーティーチャー講演会 川上康則先生(東京都立矢口特別支援学校) 内容については調整中	名桜大学 多目的ホール
⑳	12/23(水)	中学校英語教諭研修会(名護市教育委員会:共催) 崎浜功美先生(今帰仁中学校教諭) 時間:14:00~16:45	北部生涯学習 推進センター
㉑	3/12(木)	教員採用候補者研修会① 教師としての素養・学級開き・その他 時間:14:00~16:45	北部生涯学習 推進センター
㉒	3/25(水)	教員採用候補者・臨時的任用教諭研修会② (①に参加出来なかった者) 時間:14:00~16:45	北部生涯学習 推進センター

※この計画表は、2月末時点での計画です。今後新規事業や日程変更の可能性もございます。また、臨時休校解除の見通しが不明のため、大幅な変更もあるかも知れません。4月に再度お知らせいたします。夏期休業中の研修については、各学校の校内研修との共催も可能ですので是非ご活用下さい。